

## プロフィール



氏名 矢野 暢  
(やの とおる)

生年月日 1936年4月17日生

国籍 日本

矢野暢氏の学問の出発点にあるのは、東南アジアの人々と風土への深い愛着であり、その原体験をなすのは、大学院時代に南タイの村落で送った二年間に及ぶフィールドワークであった。

同氏のフィールドワークは、その後も回を重ね、東南アジア地域研究の分野で画期的な手法を確立し、アジア社会の固有原理を全人類史的な視点にてらして明らかにする等、輝かしい学問的業績を上げている。

また、世界的規模での人脈を活かし、各種の国際会議、シンポジウムを企画運営し、学術文化交流に多大な貢献をなしている。

同氏のこれまでの一連の業績、特に社会科学の分野で地域研究の手法を確立した功績は、日本はもとより世界でも高く評価され、本年1月スウェーデン王立科学アカデミーの会員に選出されたところでもある。

本年4月には、京都大学東南アジア研究センター所長に就任、日本の東南アジア研究で重要な役割を担っているこの研究所を拠点に、画期的なアジア学の確立を目指し、卓越したアカデミック・リーダーシップを遺憾なく発揮している。

### 主な著書

『タイ・ビルマ現代政治史研究』1968 『日本の「南進」と東南アジア』、『「南進」の系譜』1975 『東南アジア政策』1978 『日本の南洋史観』1979 『東南アジア世界の論理』1980 『劇場国家日本』、『南北問題の政治学』1982 『東南アジア学への招待(上・下)』1983 『東南アジア世界の構図』1984 『二十世紀の音楽－意味空間の政治学』1985 『冷戦と東南アジア』、『国際化の意味』、『国家感覚』1986 『フローの文明・ストックの文明』、『ノーベル賞』1988 『国土計画と国際化』、『衆愚の時代』1989